



TITLE:

天界よりの雑報とニウス

AUTHOR(S):

CITATION:

天界よりの雑報とニウス. 天界 1930, 10(107): 122-123

ISSUE DATE:

1930-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161510>

RIGHT:

天界よりの雑報とニュース

昨 1929 年の彗星界レビュー

昨年度は近年の例に比べるに彗星出現の少なかつた年であつて、全年中に只五つの彗星が発見されただけであつた。

第一の 1929 a 彗星はベルゲドルフ天文臺のシヴスマン・ワクマン兩氏が一月 19 日に発見したもので、小遊星によく似た軌道を持つてゐるさいふこは既報したが、近頃米國のヤング女史の説によるに、果して此の星は小遊星第 525 號 Adelaide の軌道に酷似してゐる。

次ぎの 1929 b 彗星は露國のニウジミン氏が八月 2 日に発見したもので、週期 11 年弱の土星族彗星である。

第三の 1929 c 彗星は八月 3 日に南阿のアマチュア天文家フォルブス氏が発見したもので、週期 6 年餘の、普通の木星族である。

十一月中旬の頃、米國アリゾナ州トウサン天文臺のカーペンター氏から「去る 2 日に撮つた寫眞を見るに、羊座の中央に一つの微光彗星が現はれてゐる。光は 16 等、運動は南東」この報告が發表された。其の後の記録が無いので、軌道は定まらないが、とにかく之れは 1929 d 彗星に違ひない。

年末十二月 23 日になつて、同 21 日にポーランドのクラカウ天文臺のギルク氏が西天に 7 等級の一彗星を発見したさいふ電報が來た。之れは電文に少々誤りがあつて、未だ京都では觀測されてゐないが、光度から見るに、近頃の見ものである。之れが 1929 e 彗星である。（十二月 28 日記）

上記五彗星のうち、最も精確な軌道要素の知れてゐるものを掲げる。

星の名	シヴスマン星	ニウジミン星	フォルブス星
算出者		クロンメリン氏	ウド氏
近日點通過	三月 23. 日 6552	六月 28. 日 922	六月 24. 日 714
近日點引數	355° 57' 6."6	140° 45' 50."3	257° 44' 9."0

昇交點黃經	126 7 14.4	158 15 53.3	26 13 25.8
軌道面傾斜	3 43 16.8	3 40 23.0	4 35 39.7
離 心 角	23 22 39.0	35 38 11.6	33 37 12.4
半長徑(對數)	0.5386785		
近日點距離(對數)	0.3191540	0.3092271	0.181442
公 轉 週 期	6.年 42714	10.7914	6.2785

東京三鷹天文臺の新装

最近の新聞雑誌に報ぜられたる所によれば、東京の三鷹村天文臺の新設備も着々進捗してゐるらしい。口径 65 センチの赤道儀は、ドームと共に、昨年末に終つたといふ。又、18米のアイNSTAイン塔も鐵骨は出来上つた由。此の塔上には徑 650ミリの平面鏡と 450ミリの對物レンズが置かれる筈。因みに、65センチ赤道儀は焦點 10米 21、案内鏡は徑 35 センチ、焦點 10.^{*}83、總重量約 12 噸。製作費貳拾萬圓。レンズ磨きに 83 日が費されたものである由。又、ドームは徑14米半、高さ15米、昇降床の直徑11米半、昇降の範圍 3.6米、建築費拾萬圓。

大遊星の質量について

水星から木星までの 5個の大遊星の質量については、今から三十年前、米國のニウカム S. Newcomb が、ニウトン力學の立場から一通りの確からしい數値を得、之れを各遊星の曆算に用ゐたものである。ところが、最近、南阿ケイブ天文臺のジョーンス氏は新しい觀測材料から、水金地火木の五星について新しく質量を算出した。結果は下の如くである。何れも、太陽の質量を單位としたものである。

大 遊 星	ニウカムの値	ジョーンスの値
水 星	1/6000000	1/ 7500000
金 星	1/ 408000	1/ 404000
地球と月	1/ 329390	1/ 328000
火 星	1/3093500	1/ 3085000
木 星	1/ 1047.35	1/ 1047.40